

《高女グローバル研修 in USA Day3 (12月10日) 報告書》

昨日に引き続き本日も生暖かい空気がボストンを覆っています。明日からの降雪予報がにわかには信じられないような穏やかな火曜日の朝を迎えました。

本日のメインイベントその1は、「自分たちの足でボストンの地を踏みしめる(=心臓バクバク初登校)」です。集合時間は授業開始の10分前の8:50。通学は朝のラッシュ時に重なるため、所要時間は1.5割増しくらいに考えておいたほうが良いでしょう。例年通りですが、今回もいました、8時前にスタッフさながらに到着している組が。勿論滞在先からの距離に幅があるため、この時点でフェアではないのですが、遠いも近いもそれぞれ地の利があるはず。大切なことは、決められた時間に然るべき場所にいるための工夫、努力、準備、判断をすることなのかなと思います。

先述の通り何しろ今日のボストンも生暖かいことに加え、皆焦る気持ちを止められずに早足でやってくるわけですから、到着時にはなぜか真冬なのに汗ばんでいるという、これもある意味微笑ましい風景でした。毎年お約束の時間にちょびっと遅れてしまう組(今年は1組)もありましたが、遅れる可能性ありと分かった段階で事前にもものすごい早口で電話をくれ(とても焦っているのが歴然)、欠席扱いとなる9:20までには全員揃うことができました。今年驚いたのは駅から迷ったという話を聞かなかったことです。昨日のフリーダムトレイルから外れるルートの生徒さんたちもスムーズに学校まで辿り着けたことがシンプルに素晴らしいと思いました。

そして本日から本格的に授業も行われます。昨日の会話クラスに続き、前半の文法クラス(ライティングテストの結果が反映されます)も始まりました。こちらもクラス分けには悲喜こもごもあったようです。実は朝の段階で、早速クラス変更をヘッドティーチャーのMichelleに訴える姿もありました。結果はどうあれ、環境を変える唯一の術は自らアクションを起こすことです。結果には運、不運もつきものですし、いくら声を上げて思い通りにいかないこともあります。この過程が人を強くするのだと思います。やった人間にしか分からない、世界を広げる大きな一歩になりました。

授業の感想は比較的ポジティブで、「楽しい」という声が笑い声とともに随所で聞こえてきています。

午後は全体としては初めての地下鉄移動となります。Park St 駅から、MIT/Kendall 駅までレッドラインにて移動。45名というグループ(狭い構内では「群衆」という表現の方が近い)が一度に移動するのは、実はかなり気を遣います。(夢に出そう)ですので万が一はぐれても最終的には合流できるように予め2つの大グループに分けました。幸い時間帯も相まって比較的すいている車内でスムーズに移動ができましたが、MITのキャンパスを45人が列をなして歩く姿は、ボストニアンには間違いなくパレードに映ったと思います。

本日のメインイベントその3(その2は弾丸ランチ、ではなく英語授業でした)は、ここMIT(マサチューセッツ工科大学)でのキャンパスツアーと座談会です。昨年もお世話になった吉永氏が今回もご対応くださいました。

(吉永氏の経歴 ※昨年の報告書より抜粋: 渋谷教育学園幕張高校を卒業後、東京大学工学部化学生命工学科に進学され、その後MITの大学院でDepartment of Chemistryを専攻されました。現在はLuminescent Solar Concentrator(小型化したソーラーパネルの研究に)取り組まれています。)

今年で大学院は4年目、当初より5年間通う予定であったとのことで、あと1年の在籍となるそうです。天気予報って当たるんだなと実感した、予報通りの雨の中のキャンパスツアーとなりましたが、その後早めに教室内にて座談会という運びになりました。吉永さんから「聞きたいことがあればそれをメインに話す」と有難いご配慮をいただき、生徒さんから続々と質問が出ます。

何を学ぶためにMITに?なぜアメリカなのか?科学技術の進歩と倫理問題について、MITにおける日本人の少なさはなぜなのか?など、答え辛い質問もある中で、そのすべてに対して真摯に答えてくださる姿が非常に印象的でした。その中でも勝手ながら是非残したいメッセージは以下です。

・自分は高校生の時にMITなんて知らなかった。井の中の蛙だった。今知った(そしてその場にいる)皆さんは、どれだけ得をしているか。

・自分が本当にやりたいことをやる。その結果に能力が関係ないとは言わないが、どれだけ物事に対する熱量があるのか、熱量がある人にはゴールがない、だから伸びる。

この方の生き様に触れ、触発された生徒さんたちの列が座談会が終了した後も途切れることがなく、非国民さながらに無理やり且つ無情に断ち切るしかないほどの、まさに「熱量」がそこにありました。

この若き素晴らしき研究者に心からの敬意を表したいと思います。

吉永さん、本当にありがとうございました!

そして本日のメインイベントその4は、「帰宅」です。来られたんだから、当然帰れるでしょう?いいえ、

そんなに甘くない。ここはアメリカ、一步郊外に出れば景色はどこも一緒くた。「あ、この家知っている」だらけの迷宮です。吉永さんと別れた後に、COOP（生協）にて解散となりましたが、その前に必ず帰宅連絡をいれるように生徒さんには念押しです。連絡がなければ搜索願いを出すと脅し、1件危うく具現化するところでした。実際には家にいるのは想定内で、ホストマザーに Call。「Girls！心配性なシャペロン（引率者）から恒例のチェックイン確認よ」とあっさり解決です。後ろで「ひゃっ！」という声にならない声が聞こえたことも申し伝えておきます。

迷い等もありましたが、結果的には 19：30 には全員帰宅できておりました。

明日はいよいよ（待ちわびては決していない）雪のボストンとなりそうです。明日こそ出番ですよ、そのヒートテックに、もこもこふわふわした巻物、ニット帽、ボストンの強風にあまり役立たなかった折り畳み傘も。

ボストン前半戦も明日にて終了です。1日1日が本当に貴重、一期一会、Now or Never.

どうか1人1人が自らの殻を破り、アメリカに来た本当の意味に出会えますように！



クラスの一コマ



MIT スタータセンター前に



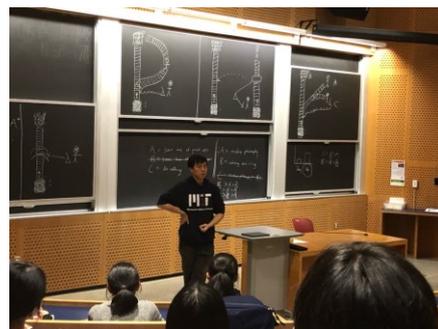
キャンパスツアー開始



The MIT “Great dome”



まるで伝わらないメディアセンターの画



気分は MIT students



行列です！



ENDLESS！



ありがとうございました！